

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	水沢森人の会
活動タイトル	大都市の中に里山の自然環境と景観を保全、再生、活用する活動
活動地域	神奈川県川崎市宮前区水沢



毎月1回の定例活動には約30人が参加  
4/16

### 【活動の目的・目標】

2000年野設立された川崎市の新しい公園緑地の設計と管理協働を行い、都市の中に約5ヘクタールの小さな自然を復活させ、日本在来の里山の植物、動物が生き残ってゆく環境をつくること、地域の子どもたちが自然との触れ合いを体験できる場をつくること。



樹木の間伐による里山林の更新

### 【今回の活動で苦労した/工夫したこと】

- (1) 活動開始以来20年が経過、植栽した木の間伐と実生を利用した植栽を強化したいが素人には大径木の伐採などできないこと。
- (2) 夏季の高温乾燥で外来植物が以上に繁茂、在来植生の生育に影響、9月に行ったアレチヌスビトハギ駆除ではゴミ袋15袋に達した。
- (3) 新型コロナの影響で学校、地域の子どもたちとの連携事業が中断され、まだ復活に時間を要している。



地域の子どもたちが参加する自然観察会  
8/19

**【活動の内容・成果】** 開催回数：全体活動とイベント11回、個別のグループ作業約100日  
参加人数：会員延べ900名、市民約150人  
達成率：90%

#### (主な活動)

- 4/16, 5/21, 6/18, 7/15, 8/20, 9/17 定例活動
- 草刈、竹林間伐、外来種駆除、池、水路整備、樹木の間伐などを実施
- 4/2 竹炭試し焼きの窯出し
- 4/15 市民参加、春の竹林整備、たけのこ堀
- 4/22 年次会員総会
- 5/27 川崎市と催、子ども自然体験イベント、ビンゴゲームで自然観察指導を行う
- 6/17 地域の子ども会が芋掘り
- 8/19 夜の自然観察会、講師吉野勲氏、あわせて竹灯籠を飾るイベント、星の観測、市民野参加、15家族36名
- 9/21 地域の稗原小学校5年生110名が水沢の森を見学、会員14名がガイド二当たる

その他、毎週金曜日に竹林整備、水、土、日に畑の作業、日曜日にパトロール、ごみ収集を実施

### 【団体概要】

2001年川崎市の「市民健康の森」プロジェクトに参加して活動を始め、現在は会員数120名、定例活動には常時30～35名が参加している。緑地維持管理のほか、竹林、栗林、梅林、里山、柿の木の保全、畑の耕作、竹炭焼きなど里山環境と景観の維持につとめている。地域の小学校3校が環境教育、野外授業に利用、市民参加の観察会、収穫イベントも行う。

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい



里山の自然は草刈によってつくられると言ってもよく、冬期のはか初夏、秋にも実施する。管理面積が広いので、区域を分けほぼ毎月の仕事となっている。既存の森林のほか埋立地もあるが、毎年の草刈によって外来種が減り、里山本来のスゲ類、スミレ類などが定着しつつあり、希少種も多く竹林の整備は専門家の評価が高くなっている。



竹林の面積は約2500㎡ある。竹林の整備は毎週1回継続して実施、20年かけて現在のきれいな竹林になったが、間伐はまだ続く。竹の利用として柵やチップのほか、竹炭焼きを行っているが、コロナ蔓延中は中止していた。設備を更新し4月初めには試し焼きを行った。



近隣の小学校では毎年5年生の環境学習や自然観察を行っているが、この3年間は中断されていた。今年6月には川崎市と共催で子供の自然体験イベントがあり、近隣の子供会が3月に植えたジャガイモ、サツマイモの収穫に訪れた。里山景観維持を目的に行っている農作業の収穫物は、施設、こども食堂に提供している。



この緑地には古い井戸の水を利用してせせらぎと池をつくっており、多摩川支流の水源地のひとつとなっている。水質維持のためガマ、ヨシなどの水草の管理、アオミドロの除去などの作業を毎月2、3回実施している。トンボの種類も多く、ヒキガエルもいるが、アカガエルは最近見られなくなった。アメリカザリガニ野駆除が大変な仕事である。